

陸平通信

OKADAIRA 2015年3月1日発行
編集・発行 / 茨城県稲敷郡美浦村土浦 2359
美浦村文化財センター（陸平研究所）
☎ 029-886-0291 FAX 029-886-0471
Eメール :bunkazai@vill.miho.lg.jp

第Ⅱ期 82号



注記作業の様子

細い面相筆を使い一文字、一文字、白いポスターカラーで土器の裏面に書いていきます。
小さな文字を書くのはちょっと大変・・・。

陸平貝塚確認調査の 整理作業実施中!

昨年9月に発掘調査を実施した陸平貝塚の調査ですが、現在は出土遺物の整理作業を行っています。今回の発掘調査では縄文時代の住居跡等を確認し、多数の土器も出土しました。12月には出土遺物の水洗い、1月より土器の一片、一片に遺跡名や出土位置を記入する作業（注記）を行っています。注記は細かい作業ですが、今後整理作業を進めていく上で欠かせません。来年度も整理作業を継続し、発掘調査報告書として調査の成果をまとめていきます。

調査速報として主だった出土遺物は現在文化財センターにて展示していますので、ご来館の際にはどうぞご覧になって下さい。



出土土器などをブラシを使って洗います。



これで陸平貝塚の
どこから出土したか
わかるヨ



土器を洗ったら文様がはっきり見えてきました。
この土器の時期はいつかな・・・

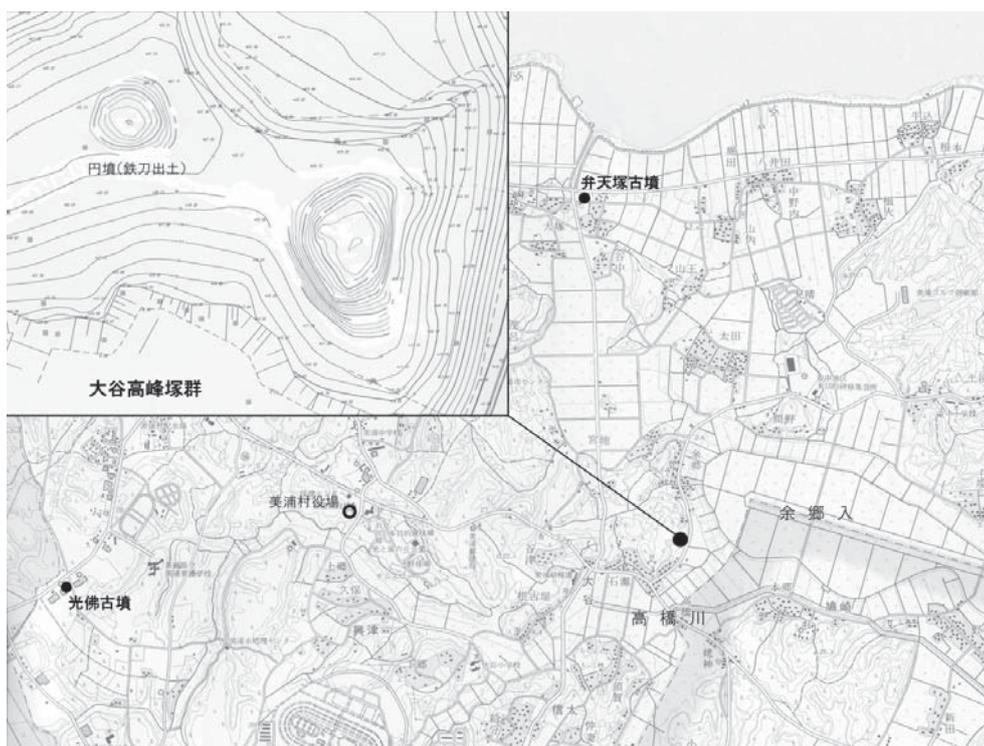
最新発掘
調査成果
速報!

大谷高峰塚群

昨年七月に発掘調査を行った大谷地区に所在する「大谷高峰塚群（おおやたかみねつかぐん）」の発掘調査報告書を現在作成中です。今回はこの塚から見つかった出土品で、美浦村では四例目となる鉄刀について紹介します。大谷高峰塚群は二つのこんもりとした小山のような塚につけられた名称です。当初は氏神様などを祭った跡と考えていましたが、発掘調査の結果、その内の一つは古墳時代のお墓（古墳）であることが分かりました。残念ながらこの古墳（円墳）は既に盗掘され、棺（ひつぎ）と思われる板状の石の破片が散乱した状態で見つかりましたが、その中に鉄の塊のような破片も混ざっていました。これを文化財センターへ持ち帰り、付着していた泥やさびを丁寧に落とすと、刃物のような破片であることが分かりまし

た。さらに破片同士をくっつけていくと、すべての破片がつながったわけではありませんが、少なくとも二振りの鉄刀に復元できました。一つは刀身の長さ（※刃の付いている部分の長さ）が七十cm、茎（※なかご、刀の柄に納める部分）を含めた全長が九十cm。もう一つは刀身が六十五cm、全長八十五cmほどで、先ほどの鉄刀と同じかやや小振りのものと推定されました。他の遺物がほとんど残っていませんので詳しいことは分かりませんが、わずかに出土した土器や鉄刀の形状の特徴から六世紀後半頃のものではないかと思われま

す。これまで美浦村では大塚の弁天塚古墳（黒坂命古墳）から鉄刀二振り、布佐の光佛古墳からは鉄刀、鉄剣（※剣は身の両側に刃が付いている）がそれぞれ一振り見つかっています。天塚古墳のものは江戸時代の終わり頃に発見されたもので、現物は伝わっていません。わずかに古記録に「長五尺有余アリ」（※百五十cmほど）とあるのみです。一方、昭和五十一年に調査された光佛古墳の鉄刀は全体が残っており、刀身八十四cm、全長百三cmを計測します。両古墳とも地域の中心となる古墳で、首長の人物が埋葬されていたことが伺えます。今回大谷高峰から見つかった鉄刀は、同地の上流部に位置する光佛古墳のものと特徴がよく似ており、その関係が注目されます。古墳は径十mほどの小さな円墳ですが、かつて内海であった霞ヶ浦の入江―余郷入と高橋川流域を押しやる見晴らしの良い高台に位置することから、やはり地域の有力者が埋葬されていた古墳であることが想像できます。



↑大谷高峰鉄刀
光佛古墳鉄刀→

美浦村の地名9

木原地区は北方を霞ヶ浦に面し、布佐地区や受領地区、大須賀津地区に隣接しています。湖岸の低地部には水田が広がり、台地部分は畑作地や低地林が分布しています。木原地区には戦国時代の城跡である木原城址があり、これにまつわる地名が多く残されています。木原城山まつりがおこなわれる会場の部分は「本丸」、その本丸と木原小との間のあたりは「二ノ丸」、木原小のあるところは「三ノ丸」と呼ばれ、まさに城があつたことが明確にわかるような堀と土塁に囲まれた地名です。守りを強化するため、城ではよく土塁や堀を直角に曲げている所がありますが、木原城でもこのようなどころが「キセ・キゼ」という地名で残されています。また、山戸丁のバス停があるあたりは「ヤマトポリ」（山戸堀・大和堀）と呼ばれ、正に木原城の堀が見られる場所です。木原城から湖岸方向をみてみましょう。「上宿」、「登宿」、「後宿」、「新宿」など「シユク」（宿）のつく名称が集中しています。それらの地名はそこが宿場町であつた場所に残る場合が多く、木原城下の宿場町であつたことがわかります。ちなみに

木原地区（その1）

江戸に近い方を「上宿」、後から設けられた所を「新宿」と呼ぶことが多いようです。湖岸に面しては、船で渡る場所によく見られる「オオフナト」（大船戸・大舟戸）や「ワタド」（渡戸）、湖岸にかかわる「ハマ」などの地名もみられます。かつてにぎわいを見せたであろう宿場の様子が想像できます。このエリアは木原城と関係して町並みがつくられていると考えられます。（つづく）



おさえんにし 御茶園西遺跡の整理を進めています

今年度、文化財センターでは昨年度に発掘調査を実施した御茶園西遺跡（木原地区）の整理作業を行っています。御茶園西遺跡の成果速報については、発掘調査直後に陸平通信 78号（2014年）にて掲載しましたが、今号では整理の様子を少しご紹介します。整理の最初は出土遺物の水洗いですが、出土した土器の量が美浦村では近年まれにみる多さでしたので、6人程で半年ほど毎日洗い続けました。その後、表紙の写真にみられるような注記作業を行い、さらに調査区内でみつかった小さな貝塚の整理を現在進めています。貝塚部分の整理は文化財センターに持ってきた貝層サンプルの貝をまず洗って土を落とし、その後、貝塚の中に含まれている魚や動物の骨を抽出します。地道な作業ですが、当時の人々の暮らしを知るための第一歩です。出土した遺物の量が多く、整理作業は数年かかりますが、陸平貝塚と同時期の縄文土器が多く出土していることから陸平貝塚との関係も気になるところです。整理の進行とともに御茶園西遺跡について時折ご紹介していきます。



乾かした貝層サンプルから骨など同じ種類ごとに寄り分けています。



これは何をしていますかわかりますか？この中に遺跡から持ってきた貝層サンプルを入れて洗っているところです。結構重労働です。



こちらは土を落とした貝層を乾かしています。貝と一緒に土器や骨などが見えてきました。

発掘調査報告書がインターネットで閲覧できます

美浦村の遺跡の発掘調査報告書（一部）がインターネットで閲覧できるようになりました。利用方法は、筑波大学附属図書館のHPを開いて図書検索項目に、書名や遺跡名または美浦村と入力すると、公開されている報告書を閲覧することができます。

江戸時代の美浦村のくらしにふれてみませんか

古文書講座参加者募集

村に残された古文書を読んでみましょう。最初は読めなくても続けていくと文字になれてきます。江戸時代の美浦村の様子も知ることができます。

内容 初めの方から少し古文書にふれたことのある方向け
 対象 美浦村在住及び在勤の方
 人数 15名
 講師 平田満男先生
 場所 文化財センター
 時間 午後1時30分～午後3時30分
 日程 全10回

申込は
3月10日～



- ①5月10日 ②6月14日 ③7月12日 ④9月13日 ⑤10月18日
 ⑥11月8日 ⑦12月13日 ⑧1月17日 ⑨2月14日 ⑩3月13日

受講料 無料 ※資料代がかかる場合があります。

陸平貝塚でいばキラTVの収録がおこなわれました

茨城県のインターネットテレビ「いばキラTV」ではテーマ曲「はじまりのひかり」のプロモーションビデオを制作することになり、美浦村ではさる2月19日に陸平貝塚で収録がおこなわれました。収録は県内市町村でおこなわれ、美浦村は曲の後半のさびの部分で登場します。いばキラTVにアクセスしてご覧になってみてください。

▼収録の様子



陸平貝塚公園の散策路についてお知らせ

陸平貝塚公園内に設置されていた散策路のうち、A・B貝塚それぞれに設置していましたが老朽化が進み、通行には危険な状態となりましたのでこのほど撤去しました。D貝塚の散策路はこれまで通り通行できますのでどうぞご利用下さい。

グループや団体で縄文体験を楽しんでみませんか

文化財センターではグループ（5名以上）や団体の体験の受け入れを行っています。陸平貝塚にちなんだ縄文土器づくりや縄文食づくりの体験等のメニューがあります。どうぞお気軽にお問い合わせください。

体験メニュー（ ）は体験料

- 縄文土器作り (800円)
 ミニ土器づくり (400円)
 土笛づくり (300円)
 縄文食づくり (500円)



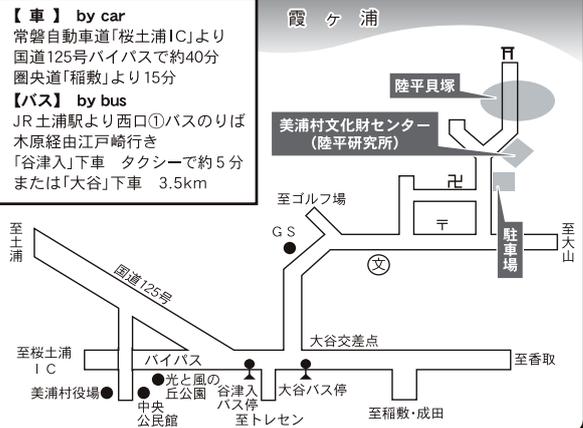
陸平貝塚公園までの交通アクセス

【車】 by car

常磐自動車道「桜土浦IC」より
 国道125号バイパスで約40分
 圏央道「稲敷」より15分

【バス】 by bus

JR土浦駅より西口①バスのりば
 木原経由江戸崎行き
 「谷津入」下車 タクシーで約5分
 または「大谷」下車 3.5km



陸平通信掲載のお問い合わせや申し込みは文化財センターまで。 ☎029-886-0291

語り継ぎたい遺跡のロマン古代文化を謡（うた）に詠む（日和吟社俚謡集より）